

# 丸山湿原群保全の会会報

(第 195 号)

発行日：2023 年 (R5) 10 月 18 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会  
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788

090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail:[maruyamashitugengun@gmail.com](mailto:maruyamashitugengun@gmail.com)

## 戦争は最大の環境破壊と差別を生み出します！

急に秋がやってきました。冬用の掛け布団を出したり、「ヒーター？」を入れる日もちらほら。10月ですから当たり前といえば当たり前なんですが。とにかく暑さが後を引いている。花や生き物は暑ければ暑いほど早く咲いたり成長したりと思いがちですが、ここは温暖帯。そこに適した生活環があるのだと再確認してしまいます。花の時期が遅くなる。成長が悪くなる。米は高温障害。キノコも出ない。雨が少ないのも原因には違いないのですが。

さらに環境破壊の大御所、新たな戦争が始まってしまいました。アフガンでは地震も。こちらは地球の身震い。地球表面に寄生しているものを振り落とそうとしているのかもしれませんが。最初は弱者から…次は誰でしょうか？そして、どこに落ちるのやら？ (今住 10月16日作成)

## キイロスズメバチの巣 ★苦情にもめげず奮闘中！

前回、突如現れたキイロスズメバチ(黄色雀蜂)の大きな巣。何とかやり過ごせるのではないかと考えていたのですが…やはり苦情？というより、山野草観察によく来られている方から「近寄れない」と。駆除を希望されました。パトロールをしている地域の方にも「対策」をお願いされました。



キイロスズメバチの気持ちで訴え！

お願いいたします。気になるのは「いつまで？」という問題。11月初めぐらいと考えています。特にイベントも無し。駐車スペース3台分ぐらいは使えませんが、そこはそれ丸山湿原群の特性、「人は少ない」ので大丈夫でしょう。道場から大岩ヶ岳経由のハイカーは多いですが…くれぐれもご注意の上、生物多様性保護にご協力ください。

ここ数年スズメバチ類が少なく、どうしたのかと心配していたほど。スズメバチは肉食。(成虫は肉食いません…。「害虫」と言われますが「害虫」を食べてもくれます。ミツバチも食べちゃいますが…食物連鎖の高位を占めています。そろそろヒト中心の生態系を見直さないと地球(自然生態系)が持たないと思うのですが、どうでしょうか。

熟考をしばし。結論としては「生態系の上位に位置するハチであること」「駐車場の小屋(倉庫)周囲のみ危険」「寒くなると女王バチが巣立ち空き家になる」「同じ巣は二度と使われない」などの点から周囲にトラロープを張り注意喚起で乗り切ろうということになりました。「被害者が出てからでは遅い」という意見も当然ありましたが、危害を加えなければ被害者は出ないと結論。間違っているかも…と一抹の不安はありますが、この対策で何とか



ヨド物置とは分離

**ガイド研修ツアー** ★9月16日(土) 淡路島「あわじ石の寝屋緑地」研修ツアー 参加17名

今年淡路島に行ってまいりました。淡路島にこんなところがあるとは知りませんでした。紹介くださったのは、兵庫県立淡路景観園芸学校(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科併設)の澤田佳宏さん(准教授)。会員が「苦しい時の澤田頼み」と相談したところ、ガイドまで引き受けてくださいました。「淡路島公園楽しもう会」との交流会もセット。



交流会の様子

まず実感として「淡路島は近い!」約1時間半で到着。淡路ハイウェイオアシス館内「やまもも」にて交流会。「楽しもう会」の皆さんは「淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地」を楽しく利活用していこうという団体だそうで、観察会や花の手入れなど積極的に活動されているそうです。子どもたちの環境学習も受け入れていて、意見交換も…その後澤田准教授より「あわじ石の寝屋緑地」の説明がありました。本日のメインはこの緑地。

ここは明石海峡大橋建設時に緑地の保護のために残された場所だそうで、一部盛り土(どこから運ばれた土かは不明)はされていますが、棚田(谷津田)を復元(ビオトープ)しています。旧圃場の土が使われていたため水田雑草や湿生植物が再生しています。**ナガエミクリ(長柄実栗)**や**トリゲモ類**、**チスイビル(血吸蛭)**、**キロコガシラミズムシ(黄色小頭水虫)**など希少種が小さな田んぼビオトープにたくさん見られました。(コガシラミズムシは見えてません…)しかしまだ整備途中。付近にたくさんある放棄水田も含め、何とかこれから整備していきたいそうです。前途は多難のようですが…がんばれ!



整備後出てきたナガエミクリ

淡路島はため池王国。日本一ため池が多いのが兵庫県でその半数以上を淡路島が占めています。「野池」と言われる小さなため池のことですが。圃場大規模化で減少の一途。治水を考慮した大きなため池に変わりつつあります。生物多様性のことを考えると「野池」の重要性は明白ですが、生産性を考えると仕方がないのか。どちらも「人の営み」から生まれた池。水田生態系の維持を考えるにはどうしたらいいのでしょうか?



放置された谷津田 まだ間に合う イシガメもいた

淡路島は「いじくりまわされた島」という印象を持っていたのですが、スペックは非常に高いと思いました。ガイドをしながら田んぼビオトープ内の**セイタカアワダチソウ(背高泡立草)**を引き抜いていた、真っ黒に日焼けした澤田准教授が印象的でした。学ばねば…ありがとうございました。



つついっ手が動くと外来種除去



記念撮影 どこから見ても真っ黒けの澤田准教授

**定期活動** ★9月24日(日) 歩道倒木除去 竹筒ポスト前ササ刈り 7名で作業

キロスズメバチの巣が小屋を占拠。道具類の出し入れは困難？と思いきや、習性を知るものは恐れない。(ただのバカとも…) 倉庫にそ〜と近づき、そ〜と扉を開けます。振動は厳禁！巣を作っている



危険みたいだけど芯は固い



手鋸なら任せとけ！その後除去なもんか。あかんやろか？写真は旧道の松。もう一本、新道にあったのも処理。その後は竹筒ポスト前のササ刈りをしました。ツクバキンモンソウやツチアケビ、ギンリョウソウが出るところです。最近ではシソバタツナミも。ササもアリマコスズ(有馬小篤)が出てますがネザサ類を中心に刈り取りしました。

最後にまたそ〜と、そ〜と鋸、鎌を倉庫にしまい、レーキなどは外に保管しました。「盗らんといてや！」と言うと「盗って」みたいに聞こえますので内緒にします…ちとおかしい？

のは「覆い屋」。中の「ヨドコウ物置」(百人乗っても壊れないやつね。小さいけど)とは完全に分離されています。しかし空気の振動と距離はどうにもなりません。そ〜と、そ〜と手鋸、鎌、丸山旗、レーキを出しました。刈り払い機はガンガンぶつけてしまうので諦め、持ち込みの1台のみで対応。ま〜これだけあればなんとかなるでしょう。効率はいさぎ悪いかもかもしれませんが。

まず、なぜかそ〜とほったらかしだった歩道の倒木。やはり気になるので除去作業を。台風で倒れた枯れ松です。湿原へ向かう道をふさぐように倒れています。放置していました。またげるしくぐれるので特に不便はなし。危険も感じないのは我々だけか？

「邪魔にならないようにはしよう」と鋸で処理。ま〜こんな

しょう」と鋸で処理。ま〜こんな



習性を知ったかぶりして扉を開ける



竹筒ポスト前のササ刈り 結構真面目

**小学校環境学習** ★10月6日(金) 西谷小学校3年生4年生環境学習

フィールドワークの2回目です。今回はハチの巣の説明からスタート。とにかくハチは怖いようです。当たり前か…しかーし！「ハチには(も?)肉食系と蜜食系があるのをしっかりと覚えてもらわなくては」と肉食系のキロスズメバチの説明を最初に。いまいち楽しくなかった様で申し訳ありません。エゴノキの実を食べに来たヤマガラ(山雀)を見、エゴノキの実で「石鹸の代わりにができるよ。でも毒もあるよ」などの話を少々。そこではミツバアケビ(三葉木通)の実も見られました。

この日は花が少なかったため、ナツハゼ(夏櫨)やアケビなどの食べる話で引き込み作戦。「今回はハイキングと行きましょう」としゅっぱ〜つ！

早速ナツハゼに遭遇。和製ブルーベリーといえは目が光る。食べてみると…ちと違う？「酸っぱい！」実は今年、我が家ではナツハゼジャムに挑戦。皮は少し硬いがブルーベリージャムより美味しいと私は感じました。酸味が強いということか。なかなか鈴なりのナツハゼには遭遇しませんが、



不思議な光景 川を行く児童

もし機会があれば挑戦を。ナツハゼジャムで村おこしも可能かも？信州あたりでは製品化されています。休耕田で栽培したらどうでしょう？子どもたちよ、考えて！



禁断のリンゴ 食べました

その後、湿原に到着するも花はほとんどなし。水も無し。でも恒例の又マガヤストローは大人気。つまらないので「リンゴ狩り」を提案。児童の目が光る。そう、あのオオウラジロノキ(大裏白の木)の小リンゴ狩りです。今年は豊作。雨が少ないせい小粒。お土産に持ち帰り、梅酒のように漬け込むと「至福のリキュール」に。(毎年言ってますが…)約半年から1年漬け込めば、児童も大人になり飲めます。無理か？13年物のリキュールで味わう成人式もいいかも。大丈夫やろか？

そのまま生でかじった子もいました。まずくて渋いですが、その後ほのかに香る爽やかな香り？何かにとりつかれていました。

鉄塔からズリ(はげ山)を回り、最後にアケビを頼張って、きな粉揚げパン(本日の給食)を食べに帰って行きました。

おっと、今回もサワガニ(沢蟹)捕りは完遂。春に捕ったカニは夏休みも乗り切り、つい2日ほど前まで生きていたとか。今回は冬越しか？来年の丸山に返しに来れたらなおよろしい。複式学級の利点か？でもまた捕って帰る？



湿原なのにズリ(はげ山)を行く

### 定期活動 ★10月14日(土) 基礎調査 8名で活動

目的	市内	市外
丸山湿原	41	10
登山・ハイキング	49	64
散歩	14	56

来場者数計 234人  
(竹筒ポスト集計)

場所	時間	気温【水温】	電気伝導(EC)	PH
入口	10:03	19.0℃		
第3湿原	10:37	【15.1】	75.3 μS/cm	6.5
視点場	10:54	21.6℃	水不足測定不能	不能
第1湿原	11:04	【16.0℃】	42.7 μS/cm	5.9
第2湿原	11:45	【22.1℃】	38.1 μS/cm	5.8



ウメバチソウ開花

雨が少なく湿原に水なし。といっても地下水は枯れることはないようで、湿り気は十分。湿原の保水力はたいしたもの。だから湿原になるのでしょうか…当たり前？ただ出水口流れ出しはほとんどなし。やっとウメバチソウが咲き始めました。まだよくわかりませんが、他の花と同じように丈の短いひ弱な株

になっているのか？北方系やし…しかし歩道脇で確認できる花は大きかった。さてどうなるのでしょうか？乞うご期待。視点場付近は水位なく計測は不能ですが、真夏に姿を消したミミカキグサ類が復活。咲き始めました。南方系なのに暑さに弱いのか？本当に「不思議」ばかりです。写真は後姿のムラサキミミカキグサ(紫耳搔草)。シャイな姿がいい！とっても小さいです

後姿のムラサキミミカキグサ よ！でも視点場先端から観察できます。

最後に、セミナーのチラシをご覧ください。ぜひお越しを！今回は丸山湿原群保全活動創成期からのお二人にお願いしています。

## 丸山湿原セミナー2023

### 自然史講座

**11月23日(祝) 10:00~12:00**  
 場所 兵庫県立宝塚西谷の森公園 多目的室  
 無料 先着40名

**①セトウチサンショウウオの話**  
 講師:清水 勲 さん  
 (西谷の森公園ボランティア)

**②生物多様性について**  
 講師:武田 義明 さん  
 (神戸大学名誉教授 放送大学客員教授)

※午後には公園内でフィールドワークを予定しています  
 (公園内観察 13:00~15:00 希望者のみ)

**《お申し込み》**  
 兵庫県立宝塚西谷の森公園  
 TEL 0797-91-1630 FAX 0797-91-1631  
 Mail : info@nishitaninomori.jp

丸山湿原エコミュージアム推進協議会  
 兵庫県阪神北県民局・宝塚市・宝塚西谷の森公園(共催)  
 環境都市宝塚推進市民会議(後援)  
 丸山湿原群保全の会(実施団体)

次回活動日 10月22日(日) 11月11日(土) 23日(木・祝) セミナー 26日(日) 愛す会との協働？